



帝京大学

# 障害者スポーツの発展に向けて

帝京大学

石井ゼミ Aチーム

弓削田崇史 坂井大輝 野上純也

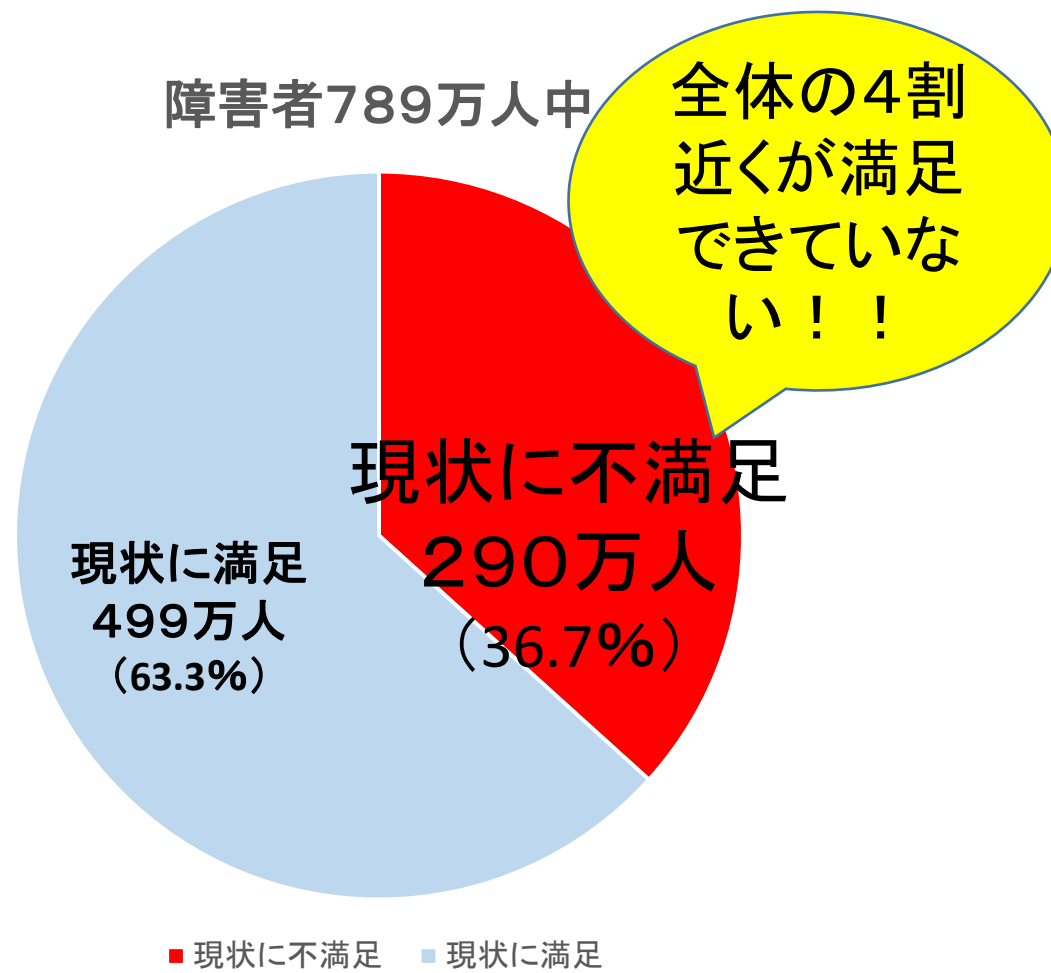
# 緒言

現在日本の障害者スポーツでは、2020年のパラリンピック開催に向け、高い注目を浴びている。



現状では、多くの障害者が  
スポーツを楽しめていない！！

# 緒言



文部科学省『スポーツへの取り組み』(2015)より

# 緒言

文部科学省『体力・スポーツに関する世論調査』(2013)によれば

1、一般成人、週1回以上スポーツを行った人

47.5%

2、障害者、週1回以上スポーツを行った人

18.2%

☆一般成人と比べて約3分の1の障害者しかスポーツを行っていない！！

# 緒言（障害者の主なスポーツ目的）



290万人  
の日常  
的な目的



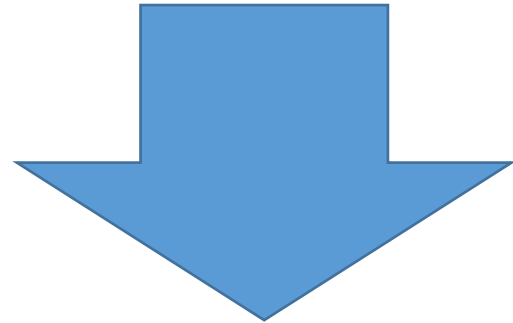
リハビリ

健康づ  
くり

リフレッ  
シュ

# 緒言 研究目的

現状では『**290万人**』の  
障害者が満足にスポーツ活動を行えていない



日常的な目的でも多くの運動機会を  
得られる環境を作り、実施率向上並びに  
**障害者スポーツの発展を目指す！**

# 研究目的

1.障害者がスポーツを行えない原因は？

2.障害者スポーツ指導者の量や質、育成状況は？

3.障害者が安心してスポーツを行うには何が必要か？

# 研究方法

## • 文献調査

調査目的 ① 障害者のスポーツ意欲の調査

② 指導者の質と量を知る

調査項目：スポーツへの関心と取組、指導者の現状

資料：障害者スポーツに関する基礎データ

(文部科学省、2015)



# 研究方法

- ・インタビュー・視察調査（調査日：8月21日）

調査目的：障害者スポーツを行うための工夫を知る

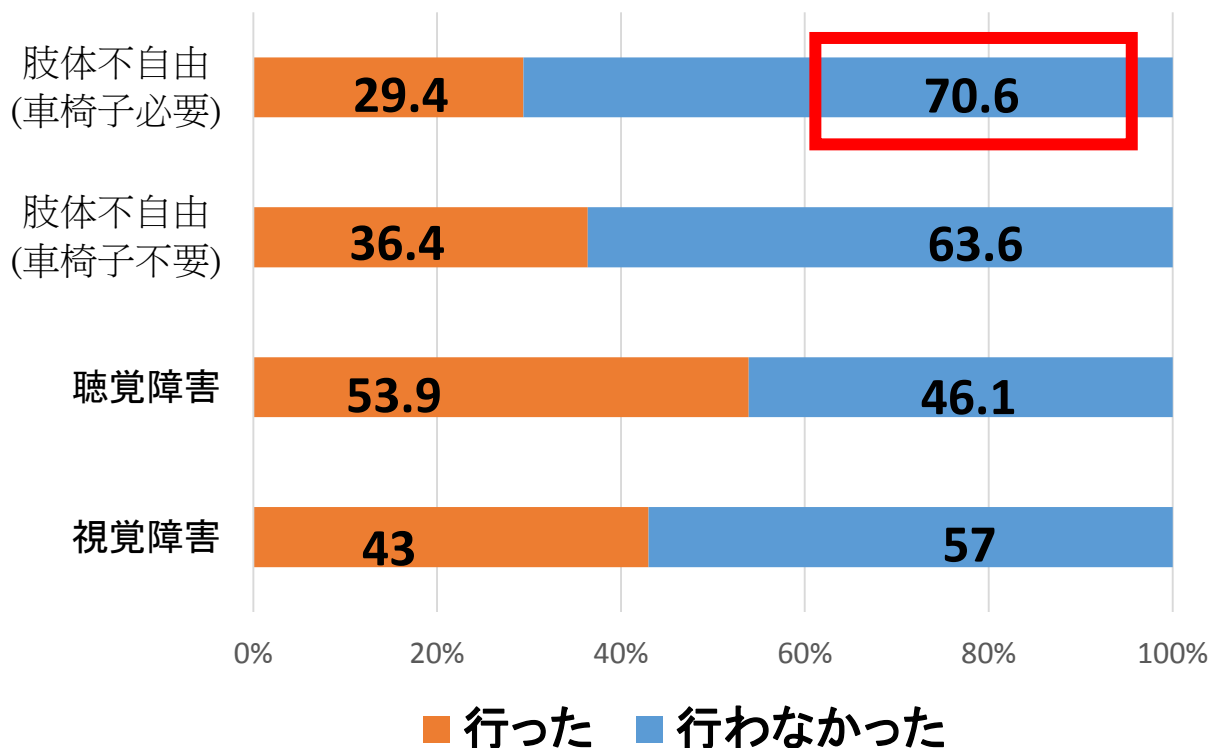
調査項目：専用設備と通常設備の差について

調査対象施設：障害者専用スポーツ施設

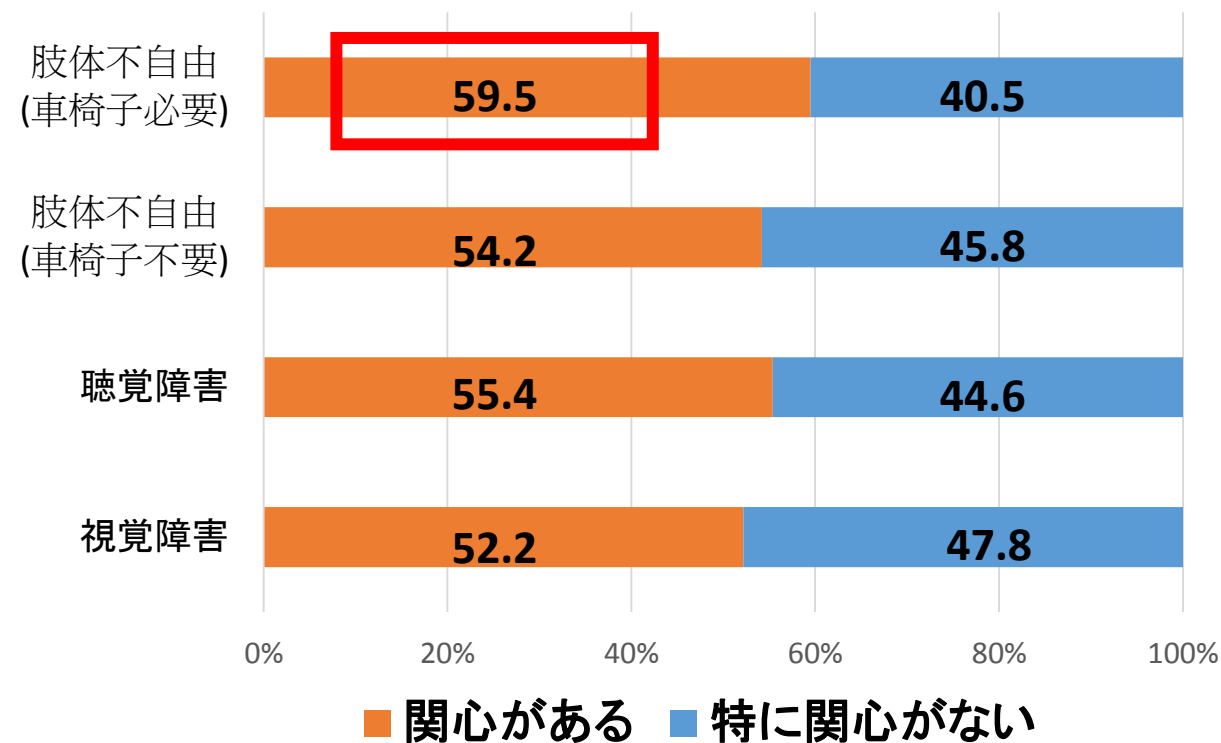
# 調査結果（文献調査）

## 障害部位別で見る意欲と現在の取組

過去一年間のスポーツ・レクリエーションの  
実施の有無



現在のスポーツ・レクリエーションへの取組



# 調査結果（文献調査）

## 障害部位別で見る意欲と現在の取組

障害種別でスポーツを行わなかった割合が最も多い  
肢体不自由者(車椅子必要)は他障害の人よりも  
スポーツへの関心が高い。



スポーツへの興味、関心があるが行わない。  
また、行えない理由がある??

# 調査結果（文献調査）

## 障害者による スポーツ実施の障壁

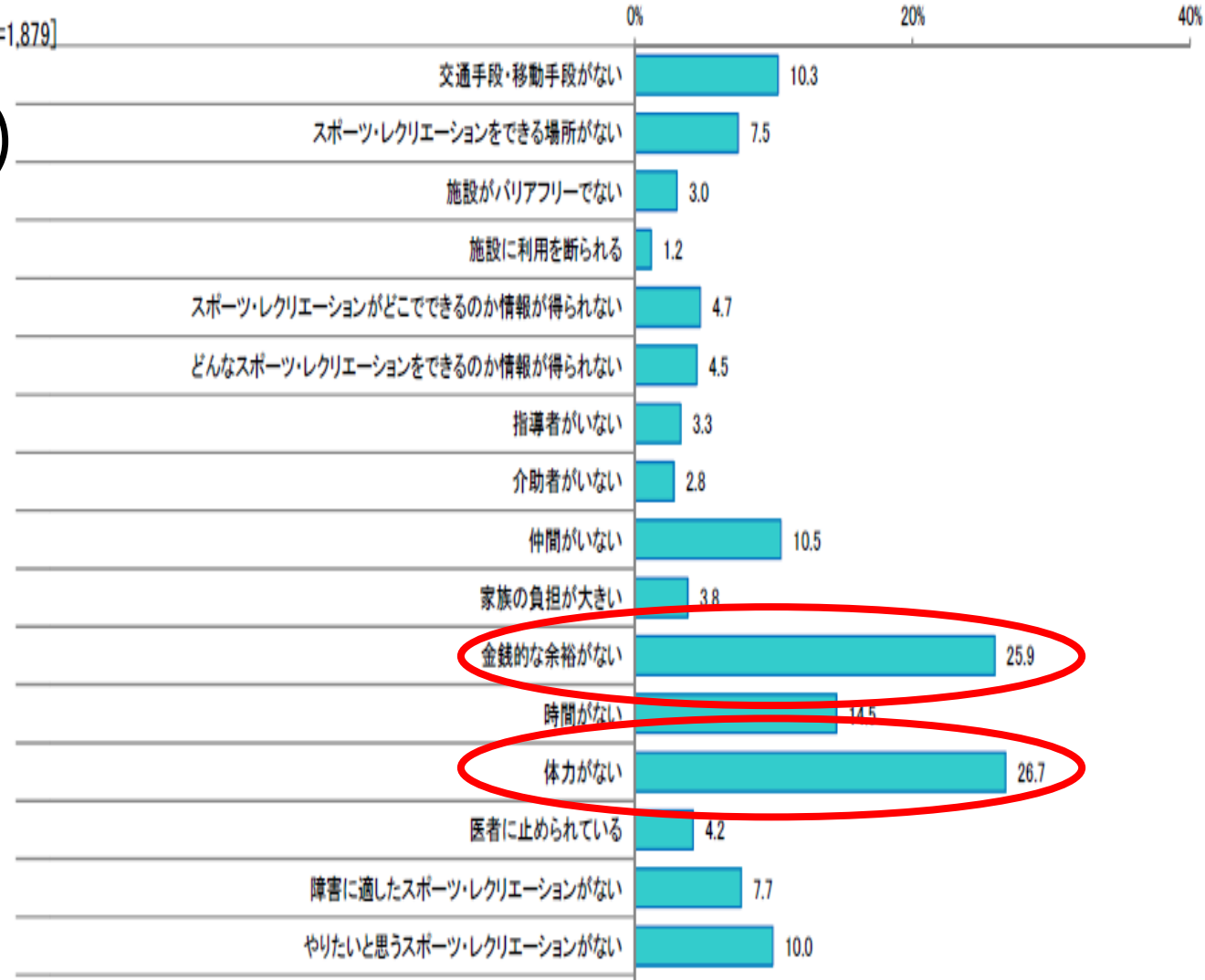
### TOP2

1. 体力がない
2. 金銭的余裕がない



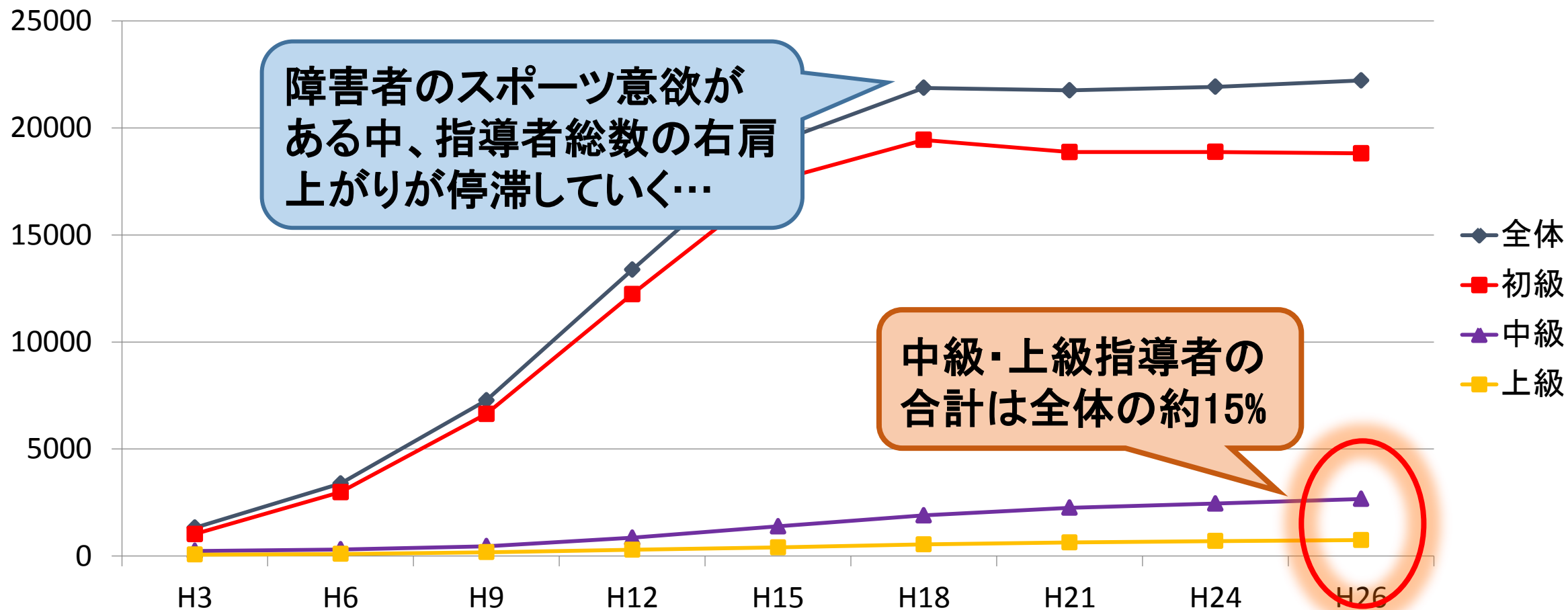
☆ 個人的な問題多 施設等の環境少

[N=1,879]



# 調査結果(文献調査)

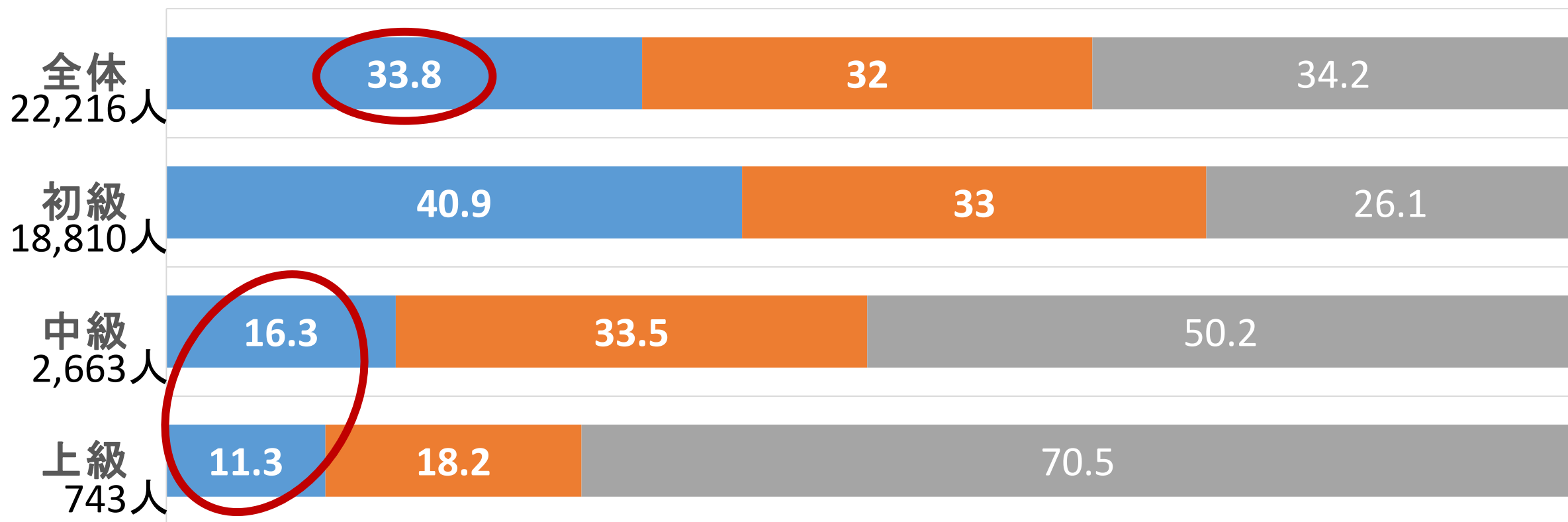
## 障害者スポーツ指導者の登録状況



# 調査結果（文献調査）

## 障害者スポーツ指導者の活動頻度

■ 全くしなかった    ■ 1年に数回    ■ 月に1回以上



# 調査結果（視察）

## 障害者が快適に活動するための工夫

- ◆車いすのための駐車スペースの確保点字
- ◆ロックの設置、施設の出入り口の簡略化
- ◆車いすの高さに合わせたベッド、簡単に行えるスポーツ設備

# 調査結果（インタビュー調査） 専用施設の現状

## 1. 人員について

➡ 不足、アルバイトなどを雇う

## 2. 一般のスポーツ施設との違い

➡ バリアフリー（スロープ、点字など）

## 3. 周知の方法

➡ 利用者の口コミや担当医師からの紹介



# 調査結果（インタビュー調査）

## 通常の施設で障害者を迎えるには



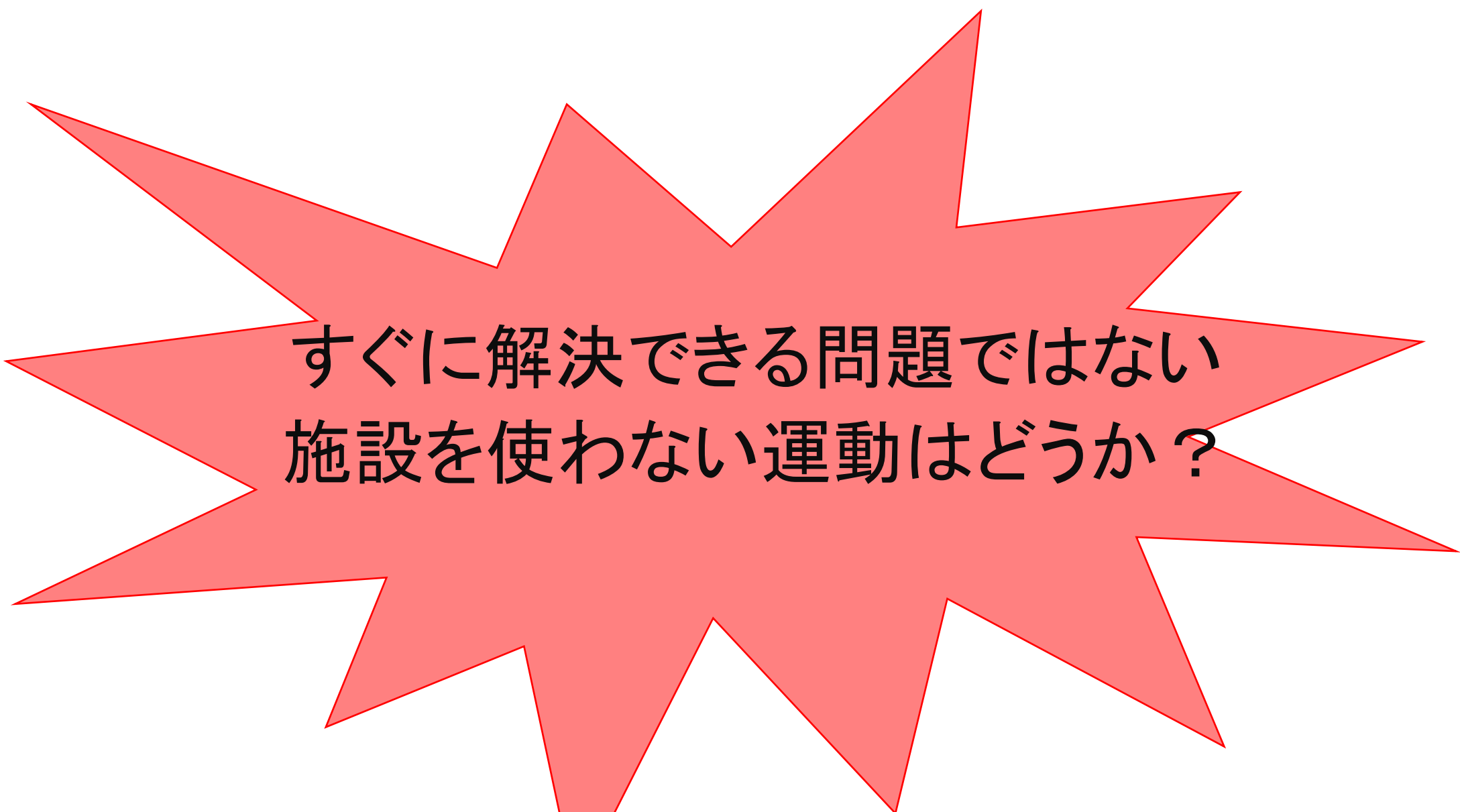
指導者等の知識があり対応できる者



専用の用具を設置



バリアフリーの徹底化



すぐに解決できる問題ではない  
施設を使わない運動はどうか？

# 調査結果 まとめ

問題点	障壁	解決案
障害者の体力	成人してからでは体力向上は難しい	<ul style="list-style-type: none"><li>• 体力に自信のない成人でも始めやすい運動</li><li>• 幼少時からの運動機会を増加</li></ul>
指導者の参加率	本業との両立が難しく、活動の機会の増減に影響は少ない	<ul style="list-style-type: none"><li>• 指導者が付かなくてもできる専門性が低く安全な運動</li><li>• 自主的に行える運動</li></ul>
利用できる施設数	専門施設と通常の施設では大きな設備の差がある。	<ul style="list-style-type: none"><li>• 専門の設備に縛られない運動</li></ul>


始めやすい

自主活動

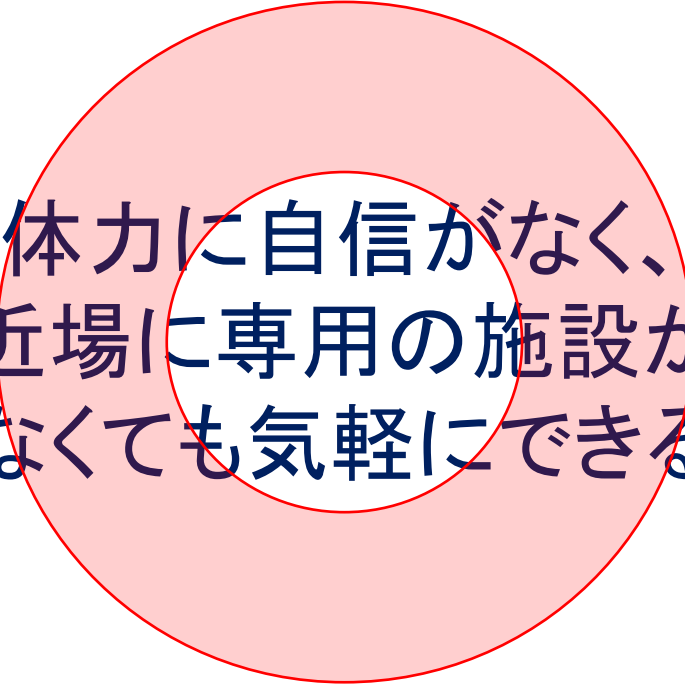
通常の設備

運動習慣に  
つながる政策

# スポーツ・運動に対する思い込みの改善



激しい動きと  
用具等を要するため、  
ハードルが高い



体力に自信がなく、  
近場に専用の施設が  
なくとも気軽にできる

## 様々な日常的目的に沿った運動を！

	始めやすさ	自主活動	通常の設定
	×	×	△
	○	△	×
	◎	◎	◎

提言

みんなであらう DAY

月に一度、国全体でウォーキング実施日を設置

機会の増加

スポーツ実施率UP



健康増進

体力向上

リフレッシュ



障害者と健常者の『壁』の排除

仲間の発見

互いの気配り



# 車椅子も自分で操作すれば運動になる



# 課題点

- 安全のため家族や友人で実施すること
  - ➡ 障害者の周りの人の意欲が重要
- 整備がされていない狭い道路や、ガードレールが設置していない場所は危険
  - ➡ 個々人の安全意識、交通整備

月に一度、国全体で

機会の増加

期待される効果

機会の増加

体力向上

興味関心が高まる

自信の獲得

自発的活動の促進

他種目への挑戦

健

体力向上

リフレッシュ

障害者と健常者の『壁』の排除

仲間の発見

互いの気配り

# 今後の展望

多くの障害者がスポーツを行える  
環境づくりを！！

# 参考文献

- 「障害者スポーツに関する基礎データ集」  
（文部科学省2015年6月）
- 「Action Plan」  
公益財団法人日本障がい者スポーツ協会